平成２９年１２月１５日

長与町議会
議長　内　村　　博　法

研修報告書

長与町議会議員研修要綱第７条の２の規定により、次のとおり公表します。

１．研修名（主催者）　　議会広報研修会（長崎県町村議会議長会）

２．研　修　日　時　　平成２９年９月２６日（火）１３時００分開会

３．研　　修　　先　　長崎県市町村会館６階
（長崎市栄町４－９　TEL095-827-5511）

４．研　修　目　的　　議会広報の向上発展に資するため

５．所　　見　　（記載は議席番号順）

【浦川　圭一議員】
　議会広報誌の役割として、議会への関心を高めることであり、その内容が議会への興味を示すもので、住民の関心に応える企画で編集されるべきであるとの基本に基づき講義を受けた、その中で特に重要と感じたのが、企画・編集において「すべてをオープンにする態度への信頼感」の講義において本町の広報においても改善の余地ありと考えた、また議会に対する住民の声を掲載しているか、それに答えるような企画はあるか、との説明を聴き広報誌に意見を求めるハガキの添付があらためて出来ないかと思った。
　また、関心の高い内容、切り口から入る、関心の高い言葉をタイトル、小見出しに用いるとのことであるが、いろんな立場の住民がいて様々な関心事があることを考えれば、「関心の高い内容、切り口、言葉」一致して導き出すのは難しいのかなとも感じた。
読みやすい記事とするために親切な紙面を心がけるとして、タイトル、リード、小見出

しの活用の仕方が説明されたが、今後の参考にしていきたいと感じた。

【中村　美穂議員】

今回の議会広報研修会は、ウィズワーク株式会社　取締役　「月刊総務」編集長　豊田　健一氏を講師に迎え、講演と広報誌のクリニックであった。

「読者目線で親切な広報誌を作るには」という演題での講演だったが、広報誌はあくまでも手段であること、きっかけを提供すること、読まれないとその目的すら達成できない、読まれなくてもなんら支障ないと、議会広報誌について仕事をするまでは、手に取った事がないと言われた。確かに住民から今まで読んだことがなかったが、知っている議員がいるからとか読むようになったとか、読まずに資源ゴミという声も聞いたことを思い出した。

まず、手に取ってもらうようにするための工夫、行政広報との住み分け、住民の声を編集に反映する。例えばモニター、アドバイザー、写真提供者等、また読ませたいならその階層を登場させる、表紙に登場してもらう、座談会や住民インタビュー等の記事を載せることである。それから用語の説明や読みやすい紙面は、親切な紙面となる。親切な紙面とは、タイトル、リード、小見出しで内容がすぐ理解できること、写真にはキャプションをつける、キャプションとは説明文のことであるが、見たままの説明でなく、本文に入らないプラスαの情報が大切である。

広報誌のクリニックでは、川棚町、佐々町、波佐見町、時津町の広報誌を良い点、改善した方が良い点を指摘されていた。本町の広報誌も提出していたら改善点もたくさんあったと思うが、次回クリニックあれば、直接指摘事項を聞きたいと思う講師の先生であった。講演もクリニックも短時間でわかりやすい話が聞けたことは、とても有意義な研修であり、今後の編集に生かしていきたいと思った。

【饗庭　敦子議員】

「読者目線で親切な広報誌を作るには」

◆　デザインが親切な紙面か。
◆　議会広報誌が住民の立場に立って編集されているか。
◆　地域・住民に対するもの：コミュニティ・リレーションズ。
◆　広報誌はきっかけであり全ては伝えきれない。
◆　住民の声を編集に反映させる。
◆　住民のニーズと合致しているか。
◆　リード文の重要性。

◆　読みたくなる内容、切り口、見せ方。
◆　写真とキャプションの関係は的確か。
◆　わかりやすく、ふさわしい日本語を使っているか。

　以上が重要と感じた。住民の立場に立っての編集に努めているが、「議員の活動が住民のためにしているという理解と共感」を得られるために、読みやすさだけでなく、関係性が理解できる内容とすることが大事である。
　議会広報誌に住民の声を反映させたいと思い、現在検討中である。また具体的なリード文の書き方、キャプションの書き方など学ぶことができたので実践していきたいと思う。
　一方向にならず、双方向になるような編集にも取り組んでいきたいと思う。

【安藤　克彦議員】
　初めて広報を担当することになった。現在２号目の編集に携わっているが、過去号や他市町の誌面を参考にしながらの作成が主であった。今回の研修で広報誌のあり方・作り方について改めて考えさせられる点が多くあった。以下に幾つか記したい。
◯住民の言葉の前提意識は議員とは違う・・・専門的な言葉をなるべく控え、親切な説明に努めるべきである。
◯どこまで載せるではなく　どこまで棄てられるか・・・何でも全て掲載するのが良いと考えがちであるが、手にとってもらうためには必要最小限にとどめる場合も。「続きはｗｅｂで」の考えも必要。
◯住民の声を編集に・・・取組例として挙げられたアンケートモニターの制度ができないか研究したい。

【分部　和弘議員】
「読者目線で親切な広報誌を作るには」
　広報誌作成ポイントの目的、対象、デザインなどを、どのように構成していくのか、編集時のポイントを詳しく聞くことができました。また、町広報紙との住み分けでは、双方を読むことでの更なる理解が進むことなど大変参考になりました。

「広報誌のクリニック」
　議会だよりのクリニックでは、常に読む側の立場を意識した紙面になっていることの重要性を再認識しました。また、人間の目線の動きに適した編集、デザイン、レイアウトになっていること。読みやすい親切な紙面、何が書いてあるのかがすぐ分かる紙面を、

今後も目指していきたいと思いました。

【堤　理志議員】
　広報に関わる以上、必ず意識しておかなければならない事項を凝縮した研修であり、今後の編集にあたり非常に役立つ研修会であった。
　今後、以下の点を意識して編集する必要性を感じた。

- 議会を知ってもらうきっかけを提供する役割。
- 限られた紙面という物理的制約などデメリットを意識し作成する必要があること。
- 住民と議員とでは前提とする知識に違いがあり、それを意識しながら紙面、記事を作らないと議会、行政特有の言葉が並び、読んでもらえない。
- 「議会と住民生活の密接さ」を感じてもらえる内容になっているか。
- 住民の興味・関心に応える中身になっているか。
- タイトル、リード文、見出しは、読み手を引きつける要であり、記事へと導く大切な要素である。
- 議案、条例の背景がわかり、議員の質疑に読み手が共感できる内容か。
- 議員の先入観ではなく、身近な住民に読んでもらい、理解していただける内容になっているか確認する必要がある。
- 当事者意識をもっているか。

これらを十分にふまえた記事が必要で、より分かりやすく表現するのが紙面のデザイン、レイアウトである。冒頭、作品づくりに徹すると役割を見失うとの講師の意味はここにあるのではないだろうか。

【吉岡　清彦議員】
　講師のよきアドバイスを受けながら、長与町独自の議会だよりを作成すればよいと思う。

【竹中　悟議員】
　読者目線で親切な広報紙を作るには～手に取られ、読まれ、行動に結びつけるには～

１．一番お伝えしたいこと
２．議会広報誌の役割
３．編集体制
４．企画　研修
５．編集　デザイン

６．言語　文章
７．表紙　写真

　以上について研修を受けた。

　毎年広報誌の研修が開催されるが、たびたびに講師の意見がばらばらであり、一貫性が無い。地方にあわせた紙面づくりが必要と感じた。

６．欠　席
　　なし